

第1回環境保全型農業直接支払制度に関する第三者委員会提出意見

農業ジャーナリスト・フリーアナウンサー

小谷 あゆみ

- 稲わらの秋搬出について、ほ場から持ち出された稲わらは有効利用されているのか。
- 稲わらの秋搬出は耕畜連携として畜産農家と連携が図られているのか。
- 全体集計したところ令和2年度と比較して令和6年度の本交付金の取組農業者が減っている中、一部の都道府県において取組農業者数が増加している理由は。
- 温暖化の防止策として、長期中干し・秋耕・湛水不実施・稲わらの秋搬出（北海道）・稲わら腐熟促進資材（山形県）などが示されていることは理解しました。一方で、メタンガスの排出量は、地域やほ場によって数字が違いうようで、特に生きものを大切にする観点から、疑問視する声もありますが、公平性を保つにはどのようなことを考えておられますか？例えば、逆に生物多様性を担保するための支援制度を作ることなどは考えられないですか？